学校番号	１１２

令和２年度　地理歴史・公民科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	日本史Ｂ　（実教出版）						
副教材等	図説　日本史通覧　（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史的現在という言葉があります。現在があるのは歴史があるからです。歴史を知れば、現在の見方や価値観が変わります。歴史を学び、考え、これからの社会を生きていくために必要な歴史的知識や考察力を身に付けてください。
歴史を学ぶには、授業だけでなく、自主的に学ぶ必要があります。意欲的に自習をしましょう。そこから沸いてくる疑問を自ら調べたり教員に聞いたりして、解決していくことでさらに学びは深まります。頑張りましょう。

2　学習の到達目標

・日本史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察する。
・日本の文化と伝統の特色についての認識を深める。
・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心をもち、世界との関わりやその影響を意識しつつ意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしている。	歴史の事象や歴史の構造に問題を見いだし、分析した上で、総合的に考察できる。また、それを表現することができる。	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、関連付けて世界との関わりやその影響を総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	・提出物での評価 ・受講状況観察	・期考査 ・提出物での評価 ・受講状況観察	・定期考査 ・提出物での評価	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	7章　幕藩体制の展開と近世の文化	1　ヨーロッパ人の来航 2　織豊政権 3　桃山文化 4　幕藩体制の成立	○ ○ ○	○ ○ ○ 	 ○ ○	○ ○ ○ ○	a: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化に対して関心と課題意識を持ち意欲的に追求している。 b: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化から課題を見いだし、ヨーロッパ諸との接触、鎖国による対外関係と関連付けて、多面的・多角的に考察している。 c: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化に関する文献、絵画、地図の諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 d: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化についての基本的な事柄をヨーロッパ諸国との接触と鎖国による対外関係と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期な小スト ・受講状況観察

1	7章　幕藩体制の展開と近世の文化	5　鎖国 6　近世の生活と文化	 ○	○ 	○ ○	 ○	a: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質から課題を見いだし、欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて、多面的・多角的に考察している。 c: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質に関する文献、絵画、グラフなどの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 d: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質についての基本的な事柄を欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期な小スト ・受講状況観察

1	8章　幕藩体制の動揺と文化の成熟	1　幕府政治の転換 2　経済の発展 3　学芸の発展と元禄文化 4　幕藩体制の動揺と幕政の改革 5　欧米列強の接近と天保の改革 6　江戸中・後期の文化	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程や、世界史的視野を意識しながら立憲政治の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程について、課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程や、立憲政治の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程について、課題を見いだし、世界史的背景と関連付けて多面的多角的に考察している。 c: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程や立憲政治の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程に関する文献、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程や立憲政の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程に関する基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期な小スト ・受講状況観察

2	9章 近代への転換	1 開国 2 明治維新 3 四民平等と富国強兵 4 初期の外交と国内政治 5 文明開化	 ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	a: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、課題意識を高め、意欲的に追究している。 世界史的視野を意識しながら、立憲政の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程について、関心と現代に通じる課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、課題を見いだし、世界史的背景と関連付けて多面的多角的に考察している。 c: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程に関する文献、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期な小スト ・受講状況観察
	10.章 近代国家の形成	1 民権運動の展開 2 立憲政治への道 3 初期議会と日清戦争 4 政党の進出と日露戦争 5 産業革命と社会の変化 6 近代文化の形成と展開	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○	○ ○ ○ ○ 		

2	11章　両大戦間の日本と市民文化	1　第一次世界大戦 2　大戦後の内外環境 3　政党政治の展開 4　市民文化の展開	 ○ 	○ ○ ○ ○	○ ○ 	○ ○ ○ ○	a: 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成、太平洋戦争や第二次世界大戦などについて国際社会の動向、国内の政治・経済の動向などに対する関心と現代に通じる課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成や太平洋戦争や第二次世界大戦などについて国際社会と国内の政治・経済の動向などを関連付けながら課題を見いだし、多面的多角的に考察している。 c: 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成、また太平洋戦争や第二次世界大戦などについて国際社会と国内の政治・経済の動向と関連付けながら文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d: 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成、また太平洋戦争や第二次大戦などについて、国際社会と国内の政治・経済の動向と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期な小スト ・受講状況観察
	12章　十五年戦争と日本	1　満州事変 2　日中戦争 3　アジア・太平洋戦争	○ ○ ○	○ ○	○ 	 ○ ○		

3	13章　現代の日本と新しい文化	1　占領と民主改革 2　サンフランシスコ講和会議と保安体制 3　高度経済成長下の日本 4　経済大国日本と国民生活 5　世界史の転換と日本	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○	a: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移について、相互の動きを関連付けて多面的多角的に考察している。 c: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移に関する文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期な小スト ・受講状況観察

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。